

南予地域柑橘農業復興対策チーム 第22回会議 資料

【室内会議】

- (1) 南予地域柑橘農業復興対策チームの活動方針について … 1
- (2) 復旧園地の営農支援について
 - ア 原形、改良復旧の営農再開状況 …… 2
 - イ 再編復旧の進捗状況 …… 3
 - ウ 柑橘産地の復興に向けた営農支援対策の取組み …… 8
 - エ 温州みかんの生産販売状況について …… 10
- (3) 災害に強い園地づくりの推進について
 - ア 災害に強い園地整備手法確立事業の概要 …… 11
 - イ 傾斜園地作業効率化モデル整備事業について …… 12

【現地研修】

- (1) 災害に強い園地づくりの推進 宇和島市吉田町白浦
 - ア 災害に強い園地整備手法確立事業実証圃の概要 …… 14
- (2) 復旧園地の生育状況確認 宇和島市吉田町河内
 - ア 今年度から収穫開始する改良復旧園地の概要 …… 16

「南予地域柑橘農業復興対策チーム」における今後の対応方針

1 背景

「南予地域柑橘農業復興対策チーム」においては、平成30年7月豪雨により被害を受けた南予地域の柑橘農業の早期復興に向け、地域内の関係機関が一体となり、短期対策から中・長期対策までを一元的に対応してきたところであるが、被災園地・施設の復旧も進み、令和6年3月には玉津地区再編復旧園地「白浦工区」において一部園地が営農再開したことから、今後は復旧園地の営農支援及び災害に強い園地づくりの推進等に重点を置くこととして、同チームの対応方針を見直すこととする。

2 今後の対応方針について

(1) 完全復興（全ての再編復旧園地の営農再開）までは名称変更などせず、現体制を維持する。

(2) 任務について、短期的な応急対策中心の取組みから、復旧園地の営農支援及び災害に強い園地づくりの推進等に一新する。

<任務及び活動内容>

○ 復旧園地の営農支援に関すること

- ・再編復旧工事の進捗状況確認、土づくり対策、早期成園化に向けた大苗生産、県育成品種の推進など、これまでの営農支援対策の取組みを継続
- ・植栽済原形・改良・再編復旧園地の状況確認、営農再開に向けた課題及び対応方策の検討

○ 災害に強い園地づくりの推進に関すること

- ・災害に強く省力化に対応した園地への転換を推進
- ・関係機関連携会議や現地研修などにより「災害に強い園地整備手法確立事業」や「傾斜園地作業効率化モデル整備事業」等の横展開を検討
- ・災害に備えた園地管理に関する啓発活動

○ その他柑橘農業の復興に関すること

- ・必要に応じて、上記以外の柑橘農業復興に係る事項について協議

(3) 状況に応じてチームメンバー以外の参集も求め、より実務的な会議とする。

(4) 復旧園地の状況だけでなく、復興に向けた動向や対策など積極的なPRに努める。

1 復旧園地の営農再開状況

(1) 原形、改良復旧の取組及び営農再開状況

- ・ R5年12月までに、142箇所(10.7ha)全ての復旧工事が完了
- ・ 同時期に、全箇所にて営農(土づくり等)再開
- ・ R6年3月までに、140箇所で植栽済(140箇所/142箇所=99%)
- ・ R6年度に、32箇所において収穫予定(32箇所/142箇所=23%)

(2) 今後の取り組み

- ・ これまでに復旧完了した園地も含めて、肥培管理などの営農支援体制を継続強化

<復旧園地の収穫前状況>



原形復旧園地

吉田町白浦



改良復旧園地

吉田町河内

再編復旧「玉津地区」

概要

【地区概要】

園地の緩傾斜化と排水機能を備えた農道や園内作業道を整備し担い手に農地を集積するほか、主力品種の温州みかん（南柑20号等）に加え、有望品種の紅プリンセスを新たに導入することで、担い手の所得向上や周年供給体制の強化を図り産地の底上げに繋げる。



【事業概要】

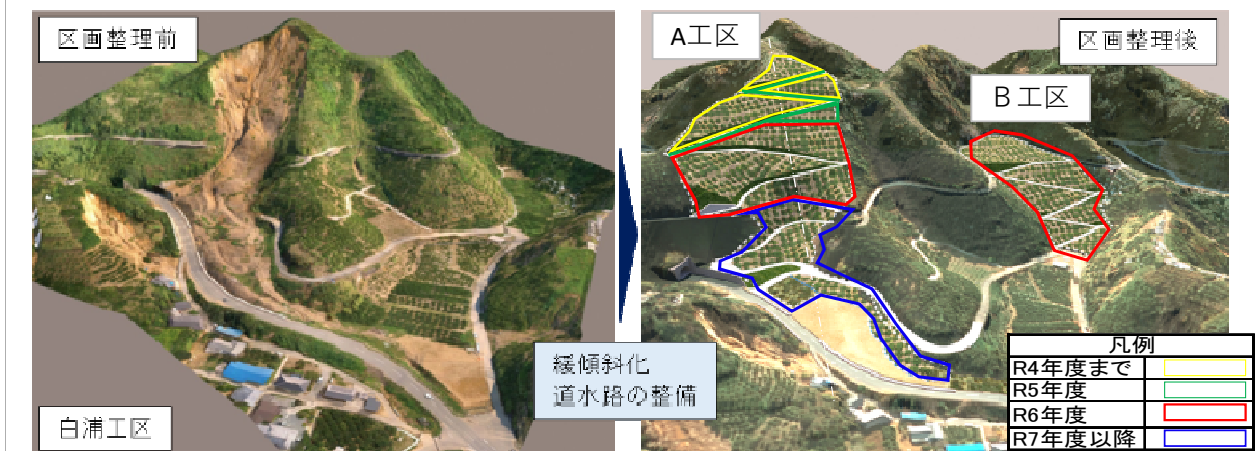
- ・事業名 農地中間管理機構関連農地整備事業
- ・事業費 1,067百万円
- ・受益面積 5.4 ha（白浦工区：1.7 ha、法花津工区：3.7 ha）
- ・工期 令和2年度～令和7年度（予定）
- ・主要工事 区画整理 5.4 ha

(参考) 事業実施スケジュール

工区名	R2	R3	R4	R5	R6	R7
シロウラ 白浦	測量設計	区画整理工事				換地処分
					植栽開始	
ホケツ 法花津	測量設計	区画整理工事				換地処分
					植栽開始	

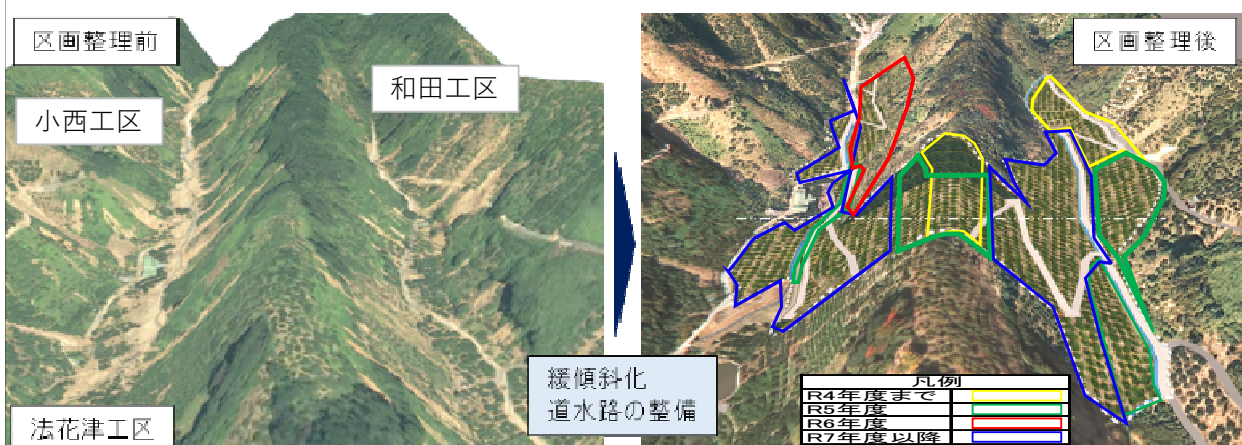
整備構想図

(白浦工区)



整備構想図

(法花津工区)



白浦工区



法花津工区



和田工区

R7年春植栽予定

小西工区

再編復旧「立間地区」

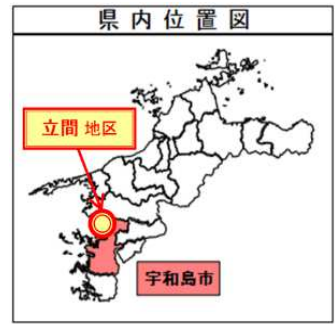
概要

【地区概要】

園地の緩傾斜化と排水機能を備えた農道を整備し、担い手に農地を集積するほか、高収益が見込める優良中晩柑類を導入することで、生産性と防災面に優れた生産拠点の確保を図り、産地力を強化する。

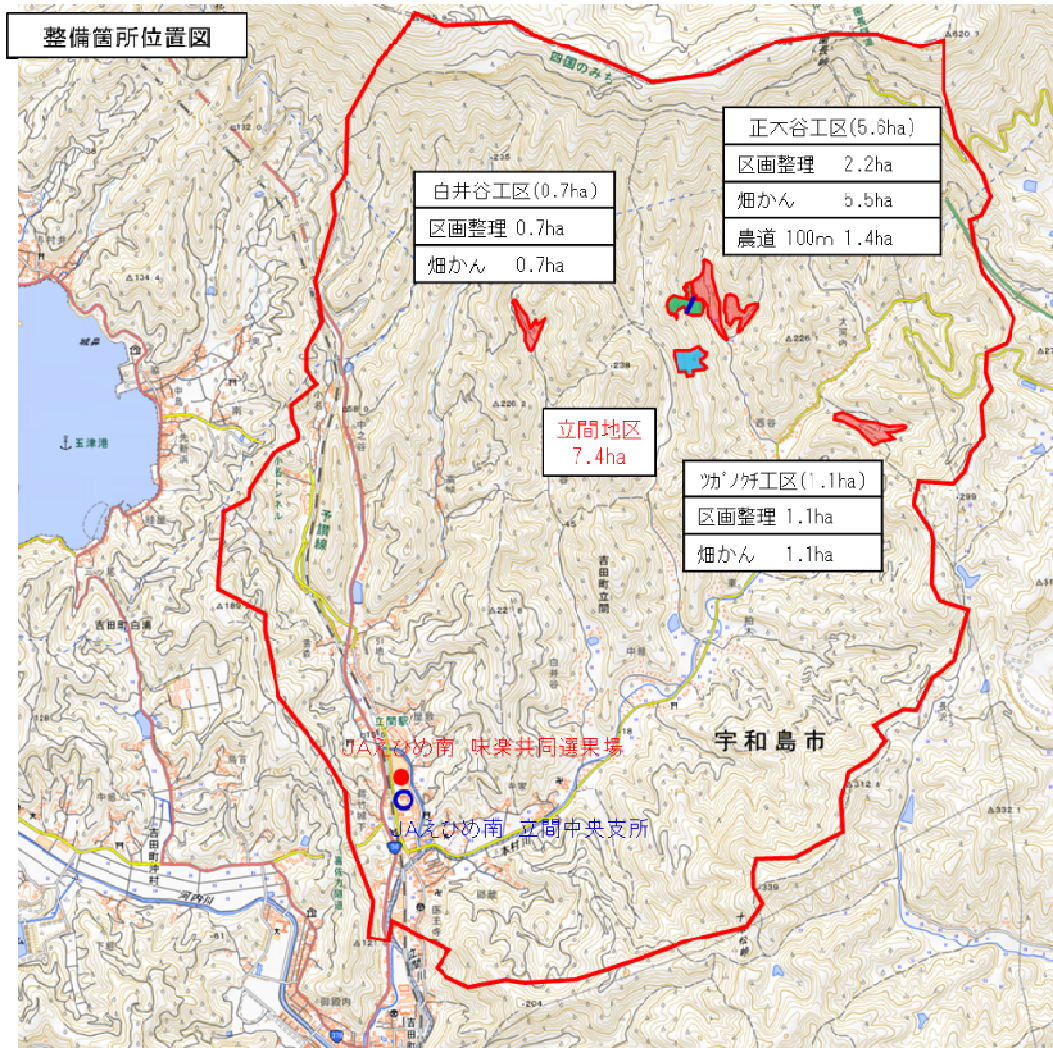
【事業概要】

- ・ 県事業名 畑地帯総合整備事業(担い手育成型)
- ・ 事業費 739 百万円
- ・ 受益面積 7.4 ha (白井谷工区:0.7ha, 正木谷工区:5.6ha, ツガノグチ工区:1.1ha)
- ・ 工期 令和4年度 ~ 令和8年度 (予定)
- ・ 主要工事 区画整理 4.0ha(白井谷工区:0.7ha, 正木谷工区:2.2ha, ツガノグチ工区:1.1ha)



(参考) 事業実施スケジュール

工区名	R4	R5	R6	R7	R8
シライタニ 白井谷	測量 設計	区画整理工事			換地 処分
				植栽開始	
ショウギタニ 正木谷	測量 設計		区画整理工事		植栽開始
				植栽開始	
ツガノグチ	測量 設計		区画整理工事		植栽開始
				植栽開始	



整備構想図

(白井谷工区)



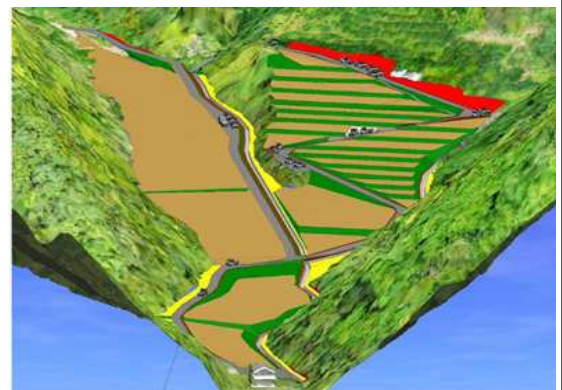
整備構想図

(正木谷工区)

(ツガノグチ工区)

地元調整完了済・最終計画

R6.9 工事着手



柑橘産地の復興に向けた営農支援対策の取組み

1 再編復旧園地における土づくり

令和5年度に工事が完了した玉津白浦工区の園地で、定植前に4種類の土壌改良剤を投入・攪拌し保肥力・保水力の効果等を実証しており、本結果を基に、今年度末に完成予定園地で施用する土壌改良剤を決定する。

なお、今年度から玉津地区の再編復旧工事では、附帯工事として堆肥の施用が含まれることとなっている。(5t/10a)



復旧園地の苗木生育調査

2 大苗供給体制の確立

復旧工事完了後の未収益期間の短縮のため、特定農業生産法人「玉津柑橘倶楽部」及びJAえひめ南(三間の業者に委託)が2年生ポット苗を生産し、今年度はそれぞれ1,400本、750本を育苗中。また、JAは苗木業者育成の2年生苗の安定供給にも取り組んでいる。



玉津柑橘倶楽部が育成中の大苗

3 紅プリンセスの推進

復旧園地の収益向上などを目的に県育成品種「紅プリンセス」導入を進めており、これまでに約14,200本(面積14.2ha相当:R4春10,400本、R5春2,100本、R6春1,700本)の苗木が導入されている。

また、地域農業育成室は、連年結果と高品質果実生産が両立できるよう樹形改善および摘果試験の現地実証を行っている。



紅プリンセスの樹形改善

4 園内作業の省力化

急傾斜園が多い当管内では産地維持のため、作業の効率化・軽労働化を図る必要があり、地域農業育成室では、自力施工による簡易な園内道の設置を推進するとともに、設置に合わせて電動一輪車による運搬作業の作業性・疲労度等を調査し、園内作業の省力化に向け普及啓発を行っている。



簡易園内道での実証

復旧方法別苗木の生育状況



再編復旧
R6.3植栽
白浦



改良復旧
R5.3植栽
河内



原形復旧
R4.3植栽
法花津



原形復旧
R 3.3植栽
法花津

温州みかんの生産販売状況について

1 生産状況の推移

単位：上段 t 下段 %

	令和5年産	令和4年産	令和3年産	平成29年産 (被災前)
J A えひめ南	16,693 (86)	16,689 (86)	18,960 (98)	19,319 (100)
愛媛県	103,800 (86)	109,300 (91)	127,900 (106)	120,300 (100)
全国	602,109 (81)	682,200 (92)	749,000 (101)	741,300 (100)

※ 下段は平成29年産比

2 販売価格（京浜市場）の推移

単位：%

	令和5年産	令和4年産	令和3年産	平成29年産 (被災前)
J A えひめ南	110	102	98	100
愛媛県	111	107	99	100
全国	106	99	92	100

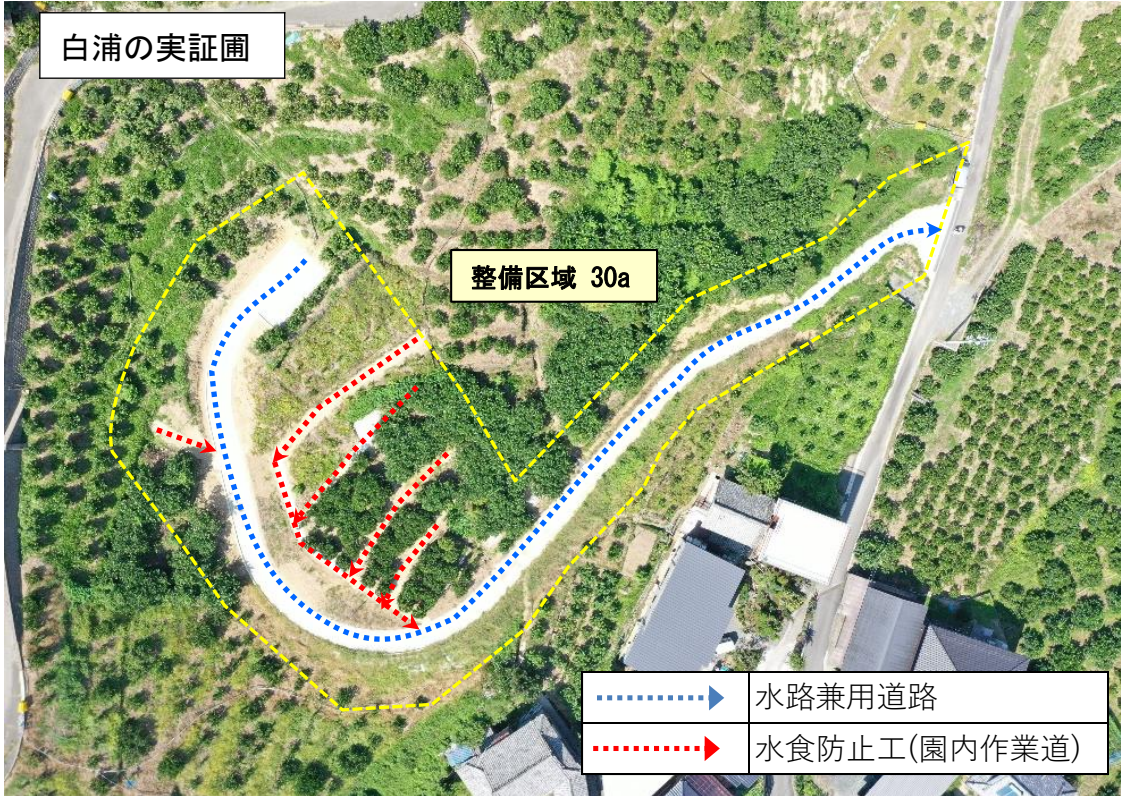
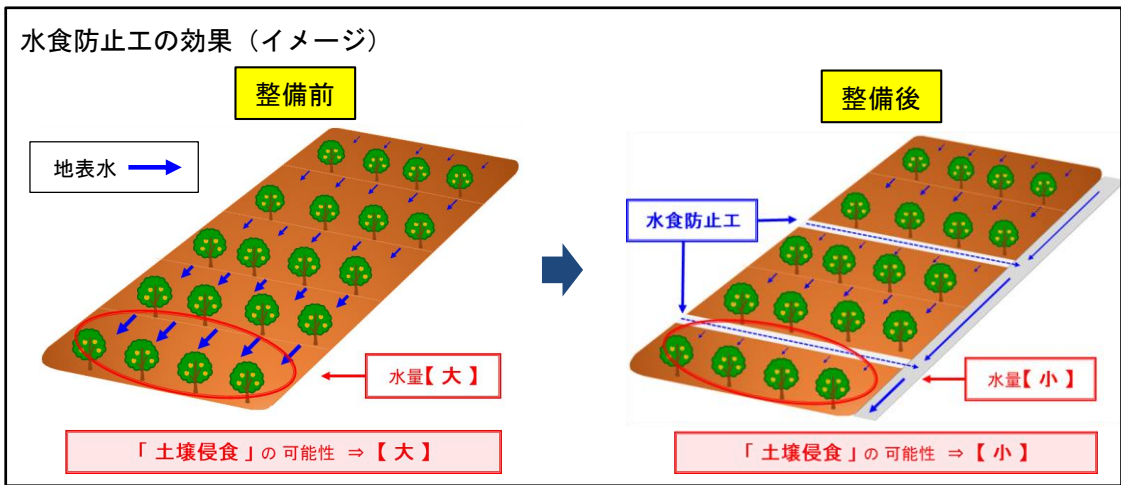
※ 平成29年産比

3 令和6年産の生産予想（9月時点）単位：t、%

	令和6年産	
	前年実績比	
J A えひめ南	14,974	90
愛媛県	96,561	93

災害に強い園地整備手法確立事業の概要

- 取り組みやすい小規模な園地整備手法
 - ・ 工事費が安価
 - ・ 工期が短い
 - ・ 樹体伐採が最小限
 - ・ 農家2戸以上で実施可能
- 園内作業道を兼ねた「水食防止工」を面的に配置することで、豪雨時の土壌侵食や地下浸透を防ぎ、崩れにくく作業性の良い園地に改良



工事費 9,800千円 (R5~R6)

工事概要 水路兼用道路 L=131m、転回場 (コンクリート舗装)
水食防止工 (園内作業道) L=106m (ソイルセメントほか)

実証圃において検証

①施工性 > 施工上の問題点等を確認

②対策効果 > 防災面・営農面での効果を確認

⇒ 改善

傾斜園地作業効率化モデル整備事業について（R4年度～6年度）

1 事業の目的

本県のかんきつ産地は、急傾斜園地での栽培が主体で労働生産性が低い傾向がある。担い手不足が深刻化するなか、生産効率の高い園地をスピード感をもって確保していくためには、産地の状況を踏まえ、大規模な基盤整備と併せて小規模な園地整備を補完的に進めていくことが不可欠。

そこで、県が直営施工を基本とした小規模園地整備のモデル事業を実施し、生産者が円滑に取り組めるスキームを構築する。

2 事業の内容

- ・作業性の悪い傾斜地や段幅の狭い園地の緩傾斜化に向けた整備

3 事業の特徴

○定額補助（補助率 1/2）

事業費＝①土工(改良園地の面積 m^2)＋②擁壁(擁壁長 m)＋③水路(水路長 m)

※積算単価は「園地改良における積算単価」から集計

○柔軟な施工方法

直営施工を中心に、委託施工、請負施工を組み合わせることが可能

○事務負担、経費負担の軽減

- ・簡易図面で施工可能（精密な測量を必要としない）
- ・書類は必要最低限（入札や見積合わせ、作業日誌の作成等が不要）
- ・必要事業費が低額（事業費に工事管理費を含まない）

○土づくり期間の確保

- ・工事完了後、土づくりを実施してから改植・新植に取り組むことが可能

4 整備地区

県内 4 地区（東予 1 地区、中予 1 地区、南予 2 地区）

※かんきつ主産地である 4 JA 管内で実施し、モデル園として横展開を図る。

5 令和 6 年度予算額 13,760 千円

【現地研修】

14:20～14:40

宇和島市吉田町白浦

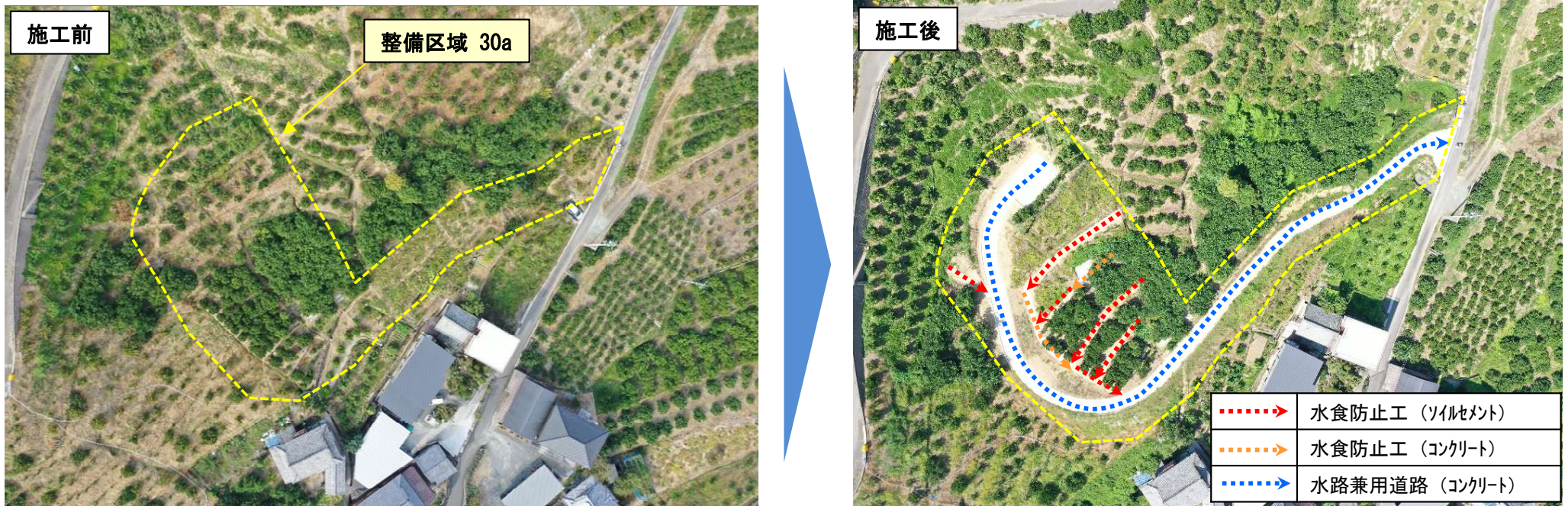
災害に強い園地整備手法確立事業実証圃の概要

15:00～15:20

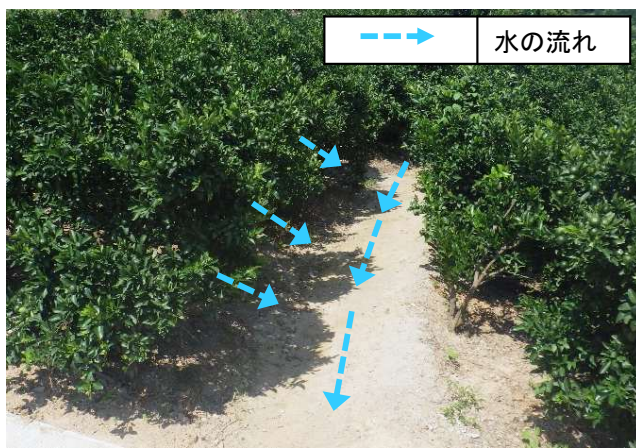
宇和島市吉田町河内

今年度収穫予定の改良復旧園地の概要

災害に強い小規模園地整備の実証 ～宇和島市吉田町白浦～



水食防止工 (作業道兼用)



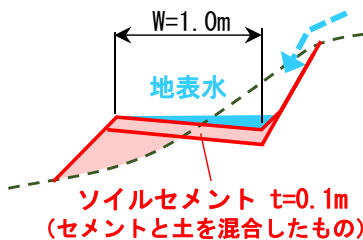
【目的】
降雨時に園地を流下する水を捕捉する又は勢いを止める

【配置計画】

- ・ 斜面に対して樹体2列おきに等高線状に配置
- ・ 一定の排水勾配を確保
- ・ 樹体の伐採を最小限に留める
- ・ 営農の作業性も考慮



【水食防止工の構造】



- ・ ソイルセメントで補強することで水流による浸食を防止
- ・ コンクリートよりも耐久性は劣るが施工費が安価
- ・ 幅員は農作業運搬車の走行等営農面も考慮

水路兼用道路



水食防止工 (セメント混合)



災害に強い小規模園地整備の効果 ～宇和島市吉田町白浦～

災害防止・ 耕土の流出防止

(平成30年7月豪雨状況) 園地を直下方向に流れる災害多数



営農の省力化

作業道未設置 歩行



作業道設置 E-CAT利用



21m(荷重45kg)運搬時の必要時間

運搬時間が15%に短縮		時間 (秒)	比率*
園内道	E-CAT	23	0.15
	歩行	84	0.56
未設置	歩行	149	1.00

*比率: 「園内道未設置 歩行時の時間を1」とした時の比率

**他効果: 機械運搬が可能となり、作業が楽に
風・太陽の通り道確保による高品質化
も期待**

改良復旧園地状況【河内地区】



(R6.9.30 現在)

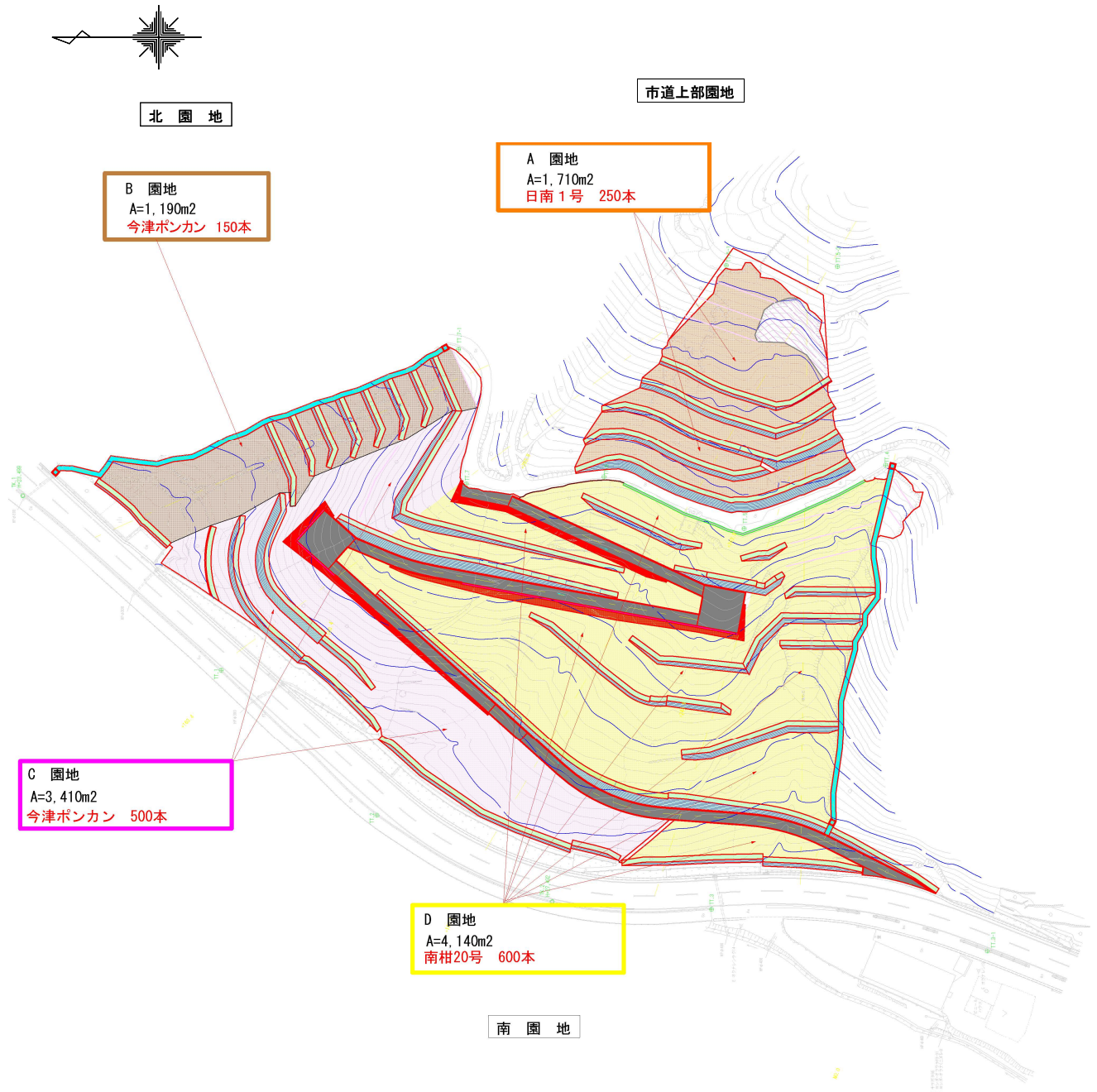
【事業概要】

- 受益面積 : 整備前 1.5ha(うち被災面積 1.0ha)
整備後 1.1ha
- 生産農家数 : 4戸
- 事業費 : 約 2.2 億円(うち地元負担約 6 百万円)
- 事業期間 : 令和元年 12 月～令和 5 年 3 月

【工事概要】

- 整地工 : A=1.1ha
- 承水路兼用道路 : W=2.5m L=290m
- 排水路 : N=2 箇所 L=179m
- 畑かん施設 : A=1.0ha
- かご枠・木柵

【植栽概要】



植栽種別 : 南柑 20 号、今津ボンカン、日南 1 号等
N=1,500 本